

平成18年12月に開通した
地下鉄今里筋線の80系電車

Osaka Metro より提供



水洗化100%達成

この期間に、城東区内には中浜、今福、放出の3か所の下水処理場が完成しました。全市12か所の下水処理場がありますが、1区に3か所の処理場があるのは城東区だけです。

全体計画は昭和43(1968)年度から5か年刻みで進められ、城東区域は第一次計画終了時点の昭和47(1972)年度に区域の70%、第二次計画終了の昭和51(1976)年度に97.9%、昭和60(1985)年9月、ついに水洗普及率100%を達成しました。これは当時の大阪市内では、南区、西区、東成区、東区に次いで5番目となりました。

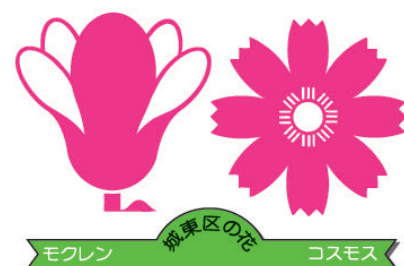
地下鉄の開通

市電に代わって市内交通の主役になったのは地下鉄です。大阪市の地下鉄は昭和8(1933)年に現在の御堂筋線の梅田(仮駅)―心斎橋間の開通が最初で、その後の延伸は戦争により一時中断しますが、昭和45(1970)年の大阪万博の開催に合わせて各路線が建設され、環状線の内側はほぼこの時期に開通しました。

城東区の地下鉄は、昭和43(1968)年7月の中央線の森ノ宮―深江橋間の開通(森ノ宮へは前年に開通)が最初で、その後、昭和52(1977)年4月に谷町線の都島―守口間が開通しますが、それぞれ他区との境界部分であり、本格的な地下鉄の開通は鶴見緑地線の開通を待つこととなります。

平成2(1990)年3月、花と緑の博覧会の開催

城東区の花モクレンとコスモス



に合わせ鶴見緑地線が京橋―鶴見緑地間で開通しました。鶴見緑地線(現 長堀鶴見緑地線)は、世界で初めてリニアモーターを導入した地下鉄で、振動や騒音の少なさや車両の小型化による建設費の低減などが注目されました。平成8(1996)年には心斎橋まで、翌年には大正まで延伸され、城東区民の都心への交通は一層便利になりました。

さらに、平成18(2006)年12月、城東区の中央部を南北に貫く今里筋線が開通し、より交通至便な「住のまち」としての基盤整備が進みました。

城東区の花「モクレンとコスモス」

大阪市は平成元(1989)年4月に市制100周年を迎え、翌年の平成2(1990)年4月から6か月間、鶴見緑地で「国際花と緑の博覧会」が開催されました。

これに向けて花と緑の美しいまちづくりをめざし、区ごとに「区の花」が選定されることとなり、城東区では、前年10月に区民の皆さんから公募し、最も多かったモクレンとコスモスを区の花に選定し、現在も区民の皆さんに親しまれています。

災害対策

平成7(1995)年1月17日、阪神・淡路大震災が阪神地方を襲い、兵庫県を中心に甚大な被害を出しました。また平成23(2011)年3月11日には、東日本大震災が東北・関東地方を襲い未曾有の被害を出しました。

これらの大災害は、地震災害や津波に対する取り組みの重要性を教訓として残しました。さらに、災害時における「自助・共助」や、被災地でのボランティア活動に対する認識を飛躍的に高めることとなりました。



城東区社会福祉協議会の
東北被災地支援ボランティアバス
(岩手県気仙沼市
平成23年6月3日～6日)



「住んでよかったと思えるまち」 城東区をめざして

近年、城東区は、区内各地区で工場等の転出跡地などに高層集合住宅や大規模小売店が相次いで建設されるなど、生活・交通至便な住のまちとなっており、人口・世帯数もわずかながら増加傾向となっています。

昭和34(1959)年に建築された城東区役所の庁舎は、完成から50年以上が経過し、老朽化、ま

区役所庁舎

た耐震安全性を満たしていないことから、平成28(2016)年1月末日に現在の「城東区複合施設」(城東区役所・城東区保健福祉センター・城東区民センター・城東図書館・城東区老人福祉センター)が竣工、4階建てと低層で利用しやすく、また太陽光発電施設や雨水利用など環境にも配慮した建物となり、区民の皆さんに親しまれています。



複合施設の
太陽光発電
システム

複合施設の
雨水ろ過装置

